

昭和二十四年度事業報告

京都府立圖書館

社会秩序の回復と民心の安定、学制の改革と学習方針の變化等、種々な理由が重なり合つて図書館の利用者は昨今は益々増加しつゝある。本館ではこの機を逸することなく二十四年度においては図書費を相当に増額し、新刊図書、参考書の充実を期し、市内に分館（二館）を設けて市民の読書慾を刺激し、又新に週一回の子供の会を催して児童と図書館との結びつけに成績をあげた。

二、利用者

昭和二十四年度に於ける利用者の總數は一七七、八五四名でこれが内訳及開館日數、一日平均等を表示すると次の如くである。

利用者數	開館日數	一日平均	女子數
一三三、一七九	三二五	四一〇	四三、三八八 (三三%)
三八、六六七	二七五	一三八	四、六〇三 (一二%)
六、〇〇八	四三〇	一二二	一、二五一 (一九%)

尙本年度の月別一日平均入館者は次の通り

四月	本館	河原町	分館	伏見	計
一八二					一八一

又利用者を職業別に

五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	通年一 月平均
四五七	四八〇	三五七	四七三	四五六	四二三	四三六	三四六	三九三	五一八	三三三	四一〇
一二三	一〇二	一二三	一二〇	一四三	一五三	一二七	一七〇	一九三	一七四	一三八	
四五七	六一三	四五九	五九六	五七六	五六六	五八九	四七三	五六三	八七九	六二六	一二二

三、藏書の増加

本年度の図書購入冊数は

一 般 學 生		本 館		河 原 町 分 館		伏 見 分 館	
一 般	一 八 %	本 館	一 八 %	河 原 町 分 館	五 〇 ・ 三 %	伏 見 分 館	二 一 ・ 四 %
學 生	六 九 %				四 九 ・ 七 %		七 八 ・ 六 %
兒 童	一 三 %						

度の圖書購入冊数は

本 館 用	貸 出 文 庫 用	河 原 町 分 館 用	伏 見 分 館 用
四、七二八冊	一、七九七冊	一、一五二冊	一、九九〇冊

計 九、六六七冊

これによつて二十四年度末蔵書総数は一九三、五六五冊となる。

又前年度に創設した京都出版の図書による京都出版文庫の図書も今年度中一五〇冊の寄贈により、約九百冊に達した。

四、圖書利用の状況

本年度の本館圖書の利用総冊数は四一六、六〇九冊で一日平均一、二七五冊、一人平均利用冊数は最近三・一冊に達した。これは前年度の一人平均利用冊数二・五冊と比較すると一歩前進したもので、その原因としては終戦後に実施した蔵書と目録との照合整理をあげることが出来る。利用状況を各部門別に百分率を以て示すと左の如くである。

	0 総	1 哲	2 歴	3 社	4 自	5 工	6 産	7 美	8 語	9 文	新
	記	宗	科	科	科	業	業	藝	学	学	聞
	教	学	学	学	学	事	事	事	物	物	誌
本 館	二・六%	五・一%	一・三%	一・九%	一・〇%	五・三%	四・〇%	六・七%	二・〇%	一・七%	一・〇%
	六・〇%	〇・〇%	〇・〇%	〇・〇%	〇・〇%	〇・〇%	〇・〇%	〇・〇%	〇・〇%	〇・〇%	〇・〇%

(く除を分の覧閱由自は誌聞新)

五、貸出文庫の利用状況

本年度における貸出文庫の利用登録団体数は一五〇に達し、その利用図書は一五、三二一冊で貸出回数四九五回、登録団体の利用回数は

青年團	二六三回	学 校	六九回
会社工場	一四回	官 公 署	八〇回
其 他	六九回		

地域別にみると (單位回)

京都市	一二一	天田郡	一二
綴喜郡	九九	與謝郡	一〇
船井郡	四三	加佐郡	八
乙訓郡	三六	宇治郡	七
南桑田郡	三五	福知山市	六
北桑田郡	二五	竹野郡	四
相楽郡	二二	熊野郡	四
何鹿郡	一九	舞鶴市	一
中郡	一		

六、児童室の利用状況

児童室は月曜日から土曜日までの午前中は職員指導の学童団体の研究の爲に利用せしめ、午後是一般児童に解放し、日曜日は午前九時から午後五時まで開室して居る。また毎週土曜午後二時から子供会を開き、お話、劇、紙芝居、映画、幻燈などを行う外、毎月第一土曜日は京都新聞の「子供サンデー」と共催で子供会を開いている。

七、讀書相談

専任の読書相談の係員を配置して利用者の相談をうけているが本年度中に相談をうけた数は、一七、七八件に達し一日平均にすると五五件となる。

八、新刊良書解説講座

京都市内で出版された新刊書中の良書を選んでその著者自身からその著者についての解説をきく講座を開設して毎月第一土曜日に之を開いている。

九、分館の開設

分館の開設はかねてから一般の要望であつたので、本館ではその実現に努力して來たが漸くその機も熟し、二十四年六月六日には市内河原町通蛸薬師、丸善京都支店内に河原町分館を、ついで二十五年二月九日には伏見區大手筋通南部町に信用組合の階上を借りて、伏見分館を創設することができた。河原町分館は面積二十八坪、閲覧坐席五〇に二九三冊の藏書を以て一日平均一四〇名（多いときは二〇〇名を突破）の利用者を迎えている。利用者から坐席の増加を希望する声の感んであるが、換氣の點からその希望に副い得ないのは残念である。又伏見分館は面積六十坪、坐席九十人分、藏書約二千を以てこれまた一日平均一四〇名の利用者である。この分館は將來二万冊程度の充実した図書館に育成の予定である。

一〇、視聽覺ライブラリー

アメリカ政府からの寄贈により、フィルム並に幻燈機使用のため、一昨年九月から本館内に設けられ、フィルムライブラリーは其後京都府視聽覺ライブラリーと改称せられ、その利用はますます盛んである。